

第2回 横浜市都筑区地区センター及び横浜市つづき緑寿荘指定管理者選定委員会 会議録	
日 時	令和8年8月26日（水）13時00分～17時20分
開催場所	都筑区役所5階 第1会議室
出席者	藤崎委員長（横浜市立大学国際商学部 准教授） 桑原委員（都筑区老人クラブ連合会 前会長） 末広委員（中小企業診断士） 竹迫委員（参画はぐくみ工房代表） 吉野委員（都筑区連合町内会自治会 会長）
欠席者	なし
開催形態	一部非公開（傍聴者 中川西地区センター2名・仲町台地区センター2名・北山田地区センター2名）
議 題	1 会議の公開・非公開について 2 応募資格等の確認について 3 選定方法の確認について 4 面接審査 5 採点審査（指定候補者の選定）
決定事項	1 応募資格等の確認及び選定方法の確認、並びに応募団体の面接審査におけるプレゼンテーション及び質疑応答部分は公開とし、指定候補者の選定に係る採点審査は非公開とした。 2 第5期指定管理者の候補者を次のとおり決定した。 【中川西地区センター】 指定候補者は、特定非営利活動法人つづき区民交流協会とする。 【仲町台地区センター】 指定候補者は、特定非営利活動法人つづき区民交流協会とする。 【北山田地区センター】 指定候補者は、特定非営利活動法人つづき区民交流協会とする。 3 委員会の選定結果について、都筑区長に報告することとした。
議 事 等	中川西地区センター 1 会議の公開・非公開について 応募資格等の確認、選定方法の確認、及び応募団体の面接審査におけるプレゼンテーション及び質疑応答部分は公開とし、指定候補者の選定に係る採点審査は非公開とした。 2 応募資格等の確認について

事務局より応募のあった1団体が当公募の欠格事項に該当しないことを報告した。

3 選定方法の確認について

事務局より採点方法、最低制限基準点及び選定方法についての説明を行った。

4 応募団体の面接審査

【特定非営利活動法人つづき区民交流協会】

特定非営利活動法人つづき区民交流協会によるプレゼンテーションが行われ、以下のような質疑応答、及び意見・要望があった。

(委員) 中川活性化プロジェクトについて、地域団体との連携は重要な取組である
と考えるが、構成団体は長年同じ団体で構成されているのか、それとも地域
の変化に応じて新たな団体や組織が加わる仕組みとなっているのか伺いた
い。

(回答) 町内会や大学、地域団体、商業関係者などの主要な構成団体は結成当初か
ら大きく変わっていない。一方で、近年は専門職大学や新たな子育て支援施
設など、地域に新しくできた施設や団体にも参加いただいている。地域に新
たな活動主体が生まれた際には積極的に声を掛け、ネットワークへ参加いた
だくことで連携を広げている。

(委員) 料理室や和室、夜間時間帯の利用率向上を課題として挙げられていたが、
現状どの程度の利用状況なのか。また、具体的にどのような工夫によって改
善を図ろうとしているのか伺いたい。あわせて、他施設の事例などを参考に
しているのかについても伺いたい。

(回答) 施設全体の稼働率は60%台後半で推移しているが、料理室は約15%、和
室は30~40%程度と低い状況にある。料理室については設備改善や料理事
業を通じた利用促進を行っており、和室については防音性能向上による利用
用途拡大を検討している。また、夜間時間帯については、日中参加できない
方に向けた健康体操などの新たな事業展開を検討している。

料理室や和室の利用率向上は他施設にも共通する課題であり、施設間で事
例共有を行いながら、それぞれの施設に適した利用促進策を検討している。

(委員) 地域に大学が立地し若い世代が増えている中で、大学との連携は地域活性

化の観点からも重要であると考え。また、中川西地区センターは区境にも位置していることから、幅広い地域から利用があると思われる。近年の小中高生の利用状況について伺いたい。

(回答)ここ数年で小中高生の利用は大幅に増加している。小学生は過去4年間で約40%増加し、中高生も30%以上増加した。小学生の頃から利用していた子どもたちが中学生、高校生になっても継続して利用していることが特徴となっている。

(委員)地域特性として人口構成や世代構成の変化があると思われるが、どのような分析を行っているのか。また、現在利用していない層へのアプローチや、今後5年間の利用者数・稼働率の目標について伺いたい。

(回答)地域の人口構成に関するデータは把握しているが、経年変化の詳細な分析までは行っていない。利用者の声や利用傾向も踏まえながら地域ニーズの把握に努めている。

施設全体としては高い稼働率に達しているため、大幅な利用者増よりも、料理室や和室など利用が低い部分の改善に重点を置いている。利用者数については、コロナ禍以前の水準まで回復させることを目標としている。

(委員)利用料金について現行料金を維持する提案であったが、その理由について伺いたい。

(回答)利用料金改定は将来的に必要な可能性があるが、料金引上げだけではなく利用者サービス向上も合わせて検討する必要があると考えている。キャッシュレス決済の導入など、利用者還元のあり方も含めて今後検討していきたい。

5 採点審査

面接審査を受けて評価を行い、各委員の評価結果を集計した。

応募団体の評点は次のとおりであり、最低制限基準点の480点を超えていることを確認した。

団体名	評点/満点
特定非営利活動法人つづき区民交流協会	656点/925点

(審査講評)

- ・地区センターは地域にとって重要な施設であり、特に災害時にどのような役割を担うのかについて、地域住民との間でより共有が図られるとよいと感じた。周辺には集合住宅も多く、指定避難所となる学校だけでは対応が難しい場合も想定されるため、地区センターが災害時にどのような対応を行うのかを地域に周知していくことが望ましい。また、地区の特性として若い世代が多いことから、小・中・高校生など若年層が利用しやすい施設運営を意識している点は評価できる。一方で、高齢者への取組については今後さらに工夫の余地があると感じたが、全体としては地域の実情に即した運営が期待できる。
- ・長年にわたり施設運営を担ってきた実績があり、安定的な運営が期待できる点は評価している。一方で、今後の地区センターには多様な主体との連携を進め、地域課題や時代の変化に対応していく視点が求められると考える。これまで築いてきた地域との関係性を生かしつつも、固定化することなく、新たなニーズや地域コミュニティの変化を捉えながら、戦略的に連携先を広げていく姿勢を期待したい。若い世代の増加など地域の変化も見据え、5年後の地区センターのあるべき姿を描きながら事業を進めていただきたい。
- ・長年の運営実績と複数施設の運営経験に基づき、提案内容は非常に分かりやすく、安定感があると感じた。堅実な施設運営が期待できる点は高く評価している。その一方で、安定性が強みであるからこそ、時代の変化に応じた新たな取組や施設の役割の変化への対応については、さらに工夫の余地があるように感じた。前例踏襲にとどまらず、今後の地域ニーズを見据えた新たな展開に期待したい。
- ・地域団体との連携を継続してきた実績を踏まえ、さらに関係強化を図ろうとする提案や、職員のコーディネート能力向上を目的とした研修などの取組は評価できる。一方で、利用者数や稼働率など現状の実績を前提とした提案が中心となっており、新たな利用者層の開拓に向けた分析や取組についてはやや弱い印象を受けた。また、自主事業についても新たな提案にやや物足りなさがあり、積極的なチャレンジ姿勢が感じられなかった点は惜しまれる。指定管理者候補として運営能力に問題はなく、安定した施設運営は期待できるが、今後は地域の中で施設が果たす役割を改めて検討し、特に若年層や学生など新たな利用者の獲得に向けた取組を進めることを期待したい。

仲町台地区センター

1 会議の公開・非公開について

応募資格等の確認、選定方法の確認、及び応募団体の面接審査におけるプレゼンテーション及び質疑応答部分は公開とし、指定候補者の選定に係る採点審査は

非公開とした。

2 応募資格等の確認について

事務局より応募のあった1団体が当公募の欠格事項に該当しないことを報告した。

3 選定方法の確認について

事務局より採点方法、最低制限基準点及び選定方法についての説明を行った。

4 応募団体の面接審査

【特定非営利活動法人つづき区民交流協会】

特定非営利活動法人つづき区民交流協会によるプレゼンテーションが行われ、以下のような質疑応答、及び意見・要望があった。

(委員) 仲町台地区センターは駅やバスターミナルに近く、利用者も非常に多い施設だが、災害時の帰宅困難者対応などをどのように考えているか。

(回答) 区と連携し、一時滞在施設として年1回訓練を実施している。平時から地域との顔の見える関係づくりを重視している。

なお、利用者数は仲町台地区センターが区内最多で、稼働率は北山田地区センターが最も高い。

(委員) 指定事業別計画書に新規事業の記載がないのはなぜか。

(回答) 新規事業は実施しているが、計画書の書き方として継続事業を中心に記載したため分かりにくくなった。毎年新しいテーマや内容を取り入れており、令和8年度も新たな取組を予定している。

(委員) まちづくり、子育て支援、青少年支援、高齢者支援の4分野を連携させるとのことだが、具体的にはどのようなことを行うのか。

(回答) 例えば、「カフェ事業で小中学生がボランティアとして参加し、高齢者と交流する。」「高齢者と子どもが同じ場で過ごす」「子育て世代、高齢者、青少年が同じ施設を利用する」といった形で、大規模な事業だけでなく、日常的に異なる世代が同じ空間で過ごし、顔の見える関係をつくること自体が重要

だと考えている。

(委員) センターが用意した事業だけでなく、子どもや高校生自身がやりたいことを実現できる場になっているのか。

(回答) 例えば、当館で実施している高校生会議では、高校生自身が課題やテーマを考え、居場所づくりやイベントについて話し合っている。職員はサポート役に徹し、できるだけ若者主体で進めることを意識している。

(委員) 高齢者支援の取組はあるか。

(回答) スマホ・パソコンカフェを実施。高齢者へのサポートに加え、青少年が操作方法を教えるなど世代間交流の場にもなっている。

(委員) 現状の課題と今後の方向性は何か。

(回答) 貸館稼働率は約 70%だが、料理室の利用率が低い。そのため男性向け料理講座やメンズライフ講座を実施し、男性参加も促している。

また、講座参加者の中にはリピーターも多いが、さらに自主グループや地域活動の担い手へ発展してもらいたいと考えている。すでにそのような例もあるが、今後さらに循環を増やしていきたい。

(委員) 外国籍の住民に対してどのような支援を行っているのか。

(回答) やさしい日本語による対応や日本語講座を行っている。また、実際にインド出身の利用者が講師となり、インド文化や料理を紹介する講座を実施している。利用者が講師や担い手になることで、多文化共生につながっている。

(委員) SNSによる情報発信はどのように考えているか。

(回答) いずれは活用していきたいが、現時点ではSNSを積極的に展開しているわけではない。利用者同士の口コミや人とのつながりを重視している。講座参加者が家族や知人を誘うことで新たな利用者につながるケースも多く、地域内の人的ネットワークを大切にしている。

5 採点審査

面接審査を受けて評価を行い、各委員の評価結果を集計した。

応募団体の評点は次のとおりであり、最低制限基準点の 480 点を超えていることを確認した。

団体名	評点/満点
特定非営利活動法人つづき区民交流協会	649 点/925 点

(審査講評)

- ・今回の審査を通じて利用者の声や運営状況を聞く中で、地域において重要な役割を果たしている施設であることを改めて認識した。地区センター全般に言えることだが、多様な事業が展開されており、地域住民の活動の場として有効に機能していることが理解できた。
- ・提案内容については、同法人が運営する他施設の提案内容とも共通する部分が多く、実際の運営経験に基づいた安定感のある内容であると感じた。
- ・提案資料に示された各事業領域の考え方については、多様な人々が関わる入口として評価できるが、それぞれの対象や取組がやや限定的であるようにも感じた。今後はさらに対象を広げ、多様な主体が交わる場づくりを進めていくことを期待したい。
- ・事業を通じて新たな市民活動団体の創出を目指している点については評価する一方で、市民活動のあり方自体が変化していることも踏まえ、新たな活動形態や参加方法に対応した視点を取り入れていく必要があると感じた。職員研修や先進事例の視察などを通じて新たな知見を取り入れながら、地域ニーズに応じたさらなる展開を期待したい。
- ・新規事業が少ないとの印象はあるものの、継続的に実施している事業への参加者数は多く、地域住民から一定の支持を得ていることがうかがえた。事業の継続によって利用者を確保できている点は評価できる。また、立地条件にも恵まれ、地域住民にとって利用しやすい施設となっている。近隣施設とも連携しながら様々な情報発信を行っており、地域に根付いた運営がなされていると感じた。一方で、新たな事業を展開するためには人的な負担も伴うため、現状の事業運営とのバランスも重要である。施設全体として利用者は多く、地域にとって必要不可欠な施設になっていると評価している。
- ・これまで大規模な利用者アンケート等を実施し、その結果を踏まえて事業改善を重ねてきた実績は評価できる。異文化交流事業やマルシェなどの取組を実施してきた経験を基盤として、多世代・多様な主体が参加できる事業を継続・発展させようとする提案は評価したい。一方で、これまで地区センターを利用していない住民や新たな利用者層に対して、どのように施設利用を促進していくのかという戦略がやや見えにくかった。利用者からの口コミによる広がりも重要だが、SNS等を活用した情報発信など、施設を知らない層への認知拡大に向けた具体的な

取組については、今後さらに検討を進めることを期待したい。

北山田地区センター

1 会議の公開・非公開について

応募資格等の確認、選定方法の確認、及び応募団体の面接審査におけるプレゼンテーション及び質疑応答部分は公開とし、指定候補者の選定に係る採点審査は非公開とした。

2 応募資格等の確認について

事務局より応募のあった1団体が当公募の欠格事項に該当しないことを報告した。

3 選定方法の確認について

事務局より採点方法、最低制限基準点及び選定方法についての説明を行った。

4 応募団体の面接審査

【特定非営利活動法人つづき区民交流協会】

特定非営利活動法人つづき区民交流協会によるプレゼンテーションが行われ、以下のような質疑応答、及び意見・要望があった。

(委員) 町内会加入率の低下が地域課題として挙げられているが、そのような状況の中で、地区センターとしてどのような役割を果たしていきたいと考えているのか伺いたい。

(回答) 町内会に加入していない方にも地域情報が届くよう工夫するとともに、地区センターを地域との接点として活用していただきたいと考えている。町内会を退会された方や地域とのつながりが薄い方にも気軽に来館していただけるようなイベントや機会を増やし、地域との接点づくりを進めていきたい。

(委員) 放課後の子どもの居場所づくりについて伺いたい。北山田地区センター周辺には小学校があり、キッズクラブとの関係もあると思うが、実際に利用している子どもたちはどのような地域から来ているのか。また、キッズクラブ

との連携についてどのように考えているのか伺いたい。

(回答) 利用者は南山田小学校の児童が多い。キッズクラブとは既に連携しており、キッズクラブ利用児童の中には、より自由な居場所を求めて地区センターを利用する子どももいる。目的が異なる施設であることから、それぞれの特性を活かしながら今後も連携を進めていきたい。

(委員) 指定事業を「カルチャー講座」と「社会講座」の2つに分類しているが、その割合はどの程度なのか。また、そのような分類をした理由について伺いたい。

(回答) カルチャー講座は趣味や学びを中心とした事業であり、有料講座が中心である。一方、社会講座は団体等との共同の講座が主で、地域課題や地域とのつながりを意識した講座であるが、多くが無料事業となっている。割合としては9割程度がカルチャー講座である。

(委員) まちづくり委員会は、認知症啓発、健康づくり、子育て支援の3つをテーマとしているとのことだが、これらは地域課題とどのように結びついて設置されたものなのか。また、子どもや青少年に関する課題への対応はどのように考えているのか伺いたい。

(回答) これらの委員会は、その時々地域課題や地域から寄せられた相談・提案をきっかけに立ち上げてきた。現在は不登校支援など新たな課題も顕在化しており、関係団体と連携した講座や意見交換の場づくりを進めている。今後も地域課題に応じて新たなネットワークづくりを検討していきたい。

(委員) 新規利用者の獲得について伺いたい。どのような層を重点的なターゲットとして考えているのか。また、その方たちへの情報発信や広報についてどのような方法を考えているのか伺いたい。

(回答) 夜間のヨガ教室を実施したところ、「地区センターの存在を知らなかった」という働く世代の参加が多くあった。そのため、これまで情報が届いていなかった働く世代を重点的なターゲットと考えている。広報についてはSNSの活用や地域イベントでの情報発信などを検討している。

(委員) 図書コーナーについて力を入れている印象を受けた。図書の貸出だけでなく、地域交流や子育て支援、多世代交流などにつなげるために、どのような活用を考えているのか伺いたい。

(回答) 図書コーナーは静かに本を借りる場所というだけではなく、多世代が交流する場所として活用したいと考えている。子ども向けのおはなし会や、予約不要で参加できる読書イベントなども実施しており、本を通じて幅広い世代が集い交流できる場づくりを進めている。

(委員) 今後、地区センターで図書取次サービスが導入される可能性もあるが、その活用についてどのように考えているか伺いたい。

(回答) 施設のスペースに制約はあるが、本を通じて人が集まり、地域との接点が増えることは歓迎したい。施設環境を踏まえながら前向きに考えていきたい。

(委員) 横浜市では再生可能エネルギー導入の取組を進めているが、施設として導入や協力に対する考えがあれば伺いたい。

(回答) 施設側から積極的に導入を提案している状況ではないが、横浜市から提案や協力要請があれば検討していきたいと考えている。

5 採点審査

面接審査を受けて評価を行い、各委員の評価結果を集計した。

応募団体の評点は次のとおりであり、最低制限基準点の 480 点を超えていることを確認した。

団体名	評点/満点
特定非営利活動法人つづき区民交流協会	642 点/925 点

(審査講評)

- これまでの運営実績に基づく安定した施設運営については評価できる。また、新規利用者の獲得に向けて、これまで地区センターを利用していなかった層に着目し、認知度向上を図ろうとする考え方は有効であると感じた。一方で、提案されたターゲット層と、地域特性や地域ニーズの分析結果との関係性については、さらに整理する余地があると感じた。施設運営においては、地域分析から導き出された課題やニーズを施策に結び付けることが重要である。また、新たな利用者の利用実績や声を地域ニーズとして改めて捉え直し、分析や事業計画へ反映していく視点も大切であるとする。今後は、利用者から得られる情報も活用しながら、地域分析と事業展開をより有機的に結び付けていきたい。

	・地域住民の中には、地区センターの役割や活用方法について十分認識していない方も少なくないと感じている。広報よこはま等による情報発信は行われているものの、施設の存在や機能が十分に周知されているとは言い難い状況もある。地区センターでどのようなことができるのかについて、より積極的な情報発信を行うことが重要であると考え。北山田地区センターは立地条件として必ずしも恵まれている施設ではないが、それにもかかわらず高い利用率を維持しており、地域から必要とされている施設であることがうかがえる。今後も地域とのつながりを支える拠点としての役割を果たしていただきたい。 ・多くの事業を積極的に展開しており、新規事業にも意欲的に取り組んでいる点は評価できる。特に、小中学生の居場所づくりや図書コーナーの活用、働く世代へのアプローチなど、地域特性を踏まえた着眼点には大きな可能性を感じた。一方で、実施している事業や講座と、地域特性や地域課題との結び付きが必ずしも明確に見えない部分もあった。それぞれの事業は魅力的であるものの、地域課題の解決や施設運営の方向性とより戦略的に結び付けられる余地があると感じる。地域コーディネーターには、地域団体をつなぐ役割だけでなく、地域課題を踏まえながら事業を組み立て、全体をマネジメントする役割も求められる。今後は各事業やネットワークを有機的に結び付け、地区センターの特色として発展させていくことを期待したい。 ・北山田地区センターは、スマイル広場をはじめとする青少年の居場所づくりに継続的に取り組んでおり、その実績は高く評価できる。また、ドローン教室などの新たな体験機会を提供する事業も提案されており、利用者層の拡大に向けた意欲的な姿勢が感じられた。社会教育や青少年支援の観点を重視した運営方針も評価できる。一方で、町内会加入率の低下や、地域との接点が薄い住民層への対応については課題認識が示されているものの、参加機会の拡大や地域とのつながりづくりに向けた具体的な手法については、なお工夫の余地があると感じた。SNSの活用を含め、新たな情報発信や利用者層の開拓に向けた取組にも期待したい。また、地区センターの存在や役割そのものが十分に認知されていない現状もあることから、地域住民に対して「どのような活動や体験ができる施設なのか」を分かりやすく発信していくことも重要である。地域特性や施設の強みを活かしながら、より多くの住民が関わることでできる施設運営を期待したい。
そ の 他	第3回選定委員会は、8月31日（月）開催とし、都筑センター（都筑地区センター及びつづき緑寿荘）、大熊スポーツ会館、東山田スポーツ会館の指定候補者を選定する。
資 料	・第2回選定委員会タイムスケジュール ・評価・採点方法について ・採点審査について ・評点表